

サービスマーケティングから学んだことを活かして

社会福祉学部 社会福祉学科 2年 口羽 優真

活動先：NPO 法人菜の花放課後児童クラブこどものいえ

ゼミ：野尻 紀恵 先生

私は、サービスマーケティングを通し、新たな課題と将来の夢を見つける事ができたと感じている。このサービスマーケティングをする以前はただ単に子どもに興味があり、子どもの事についてより深く勉強したいという気持ちがあった。今回の活動で、その1人1人にあった声のかけ方を学ぶことができたと感じている。

活動先の放課後児童クラブは、子ども達の居場所作りだけではなく、子ども達1人1人を大切に、とてもユーモアが溢れる活動先で、できないから大人の誰かに頼るのではなく、できないなら工夫をして自分達で作るといったことをしている活動先であったと私は感じている。また、事前訪問で、エープリルフールで新一年生を迎えた時に忍者屋敷であるといったイベントも行っている事を知った。そこで、夏休みにも、忍者修行を行うという事だ



だったので、私達のグループも忍者修行の企画を6日間行わせてもらった。どんな企画がいいのか、指導員の方と話した時に、目的を持つことが大切と学び、何気なく活動をしていくのと、また自分の目的や、企画の目的を持って、活動していくのとでは違うと感じた。そこで子どもたちが飽きないように、1日1日で違った企画を用意した。1日目では折り紙で手裏剣づくりを行い2日目では忍者飯づくり3日目ではプラ板でしおり作り4日目では2つのグループに分かれ、協力し、指導員の方の似顔絵作成5日目には色紙に指導員の方にあてて書いてもらい6日目にはハガキに家族へあてたメッセージを書いてもらうといった、企画を用意した。6日間の間に参加しなかった子やできなかった子の為に、ボーナスステージをもうけ大縄を行った。6日間制覇した子の為に、お菓子と、忍者修行の修了証を渡した。

事前訪問を行った時に、子ども達は私に警戒しており、人見知りの子も居た。話しかけ方がわからず、子ども達の様子を見て、どのように話しかけるか悩んでいたが、子ども達から声をかけてくれる事が多かった。だが初め大勢で押しかけたこともあり、怖くて泣く子も居て、どのように対応するべきか考えさせられ、次回の事前訪問の時までに何が子ども達は好きなのか聞き、それについて少し知識を高め2回目の事前訪問で子ども達の目線に立ち話すことができたと思っていた。しかし、子ども達は私より遥かに考え方が優れていて、私が思いつかないゲームを自分で考え、遊んでいた。その中にも人見知りの子も居たが、何度か話しかけていくうちに、自然と仲良くなれた。更に、子ども達が編み出したゲームの途中でも、夢中になっていた子どもたちだが、水分補給を自分達で何度か行ったりしていた。自分のことは自分です。小学校1年生の子も上の学年の子の真似をしながら行っていた。



活動中、午前中は勉強でその後プールに入り遊び、お昼ご飯を食べ午後は昼寝の後学生企画をさせてもらった。プ

ールは、近くの小学校のプールに行ったが、初めにプールに行く時、子ども達が、喋ってばかりで歩くペースが遅くなって列が乱れているのが気になり、どうすれば、子ども達が安全で早くプールに着くか考えた。自分が行く日までの課題として、考えた結果、道路脇を走るのは危険であった為、早歩きをす

ることで遅れている子が列を乱すことが少なくなるのではないかと考え行った。ただ行うのでは、面白くない為、その呼びかけも考えながら行う事で、子ども達もいつもより少し早く小学校に着く事ができていた。またこの事を活かし子ども達の宿題の取り組みにも利用すると、子ども達もやる気になる場面がみられることができた。

学生企画では準備不足と、十分な話し合いをグループ内でしていなかった為、考えさせられる事が多かった。更に、5日目の指導員の方へのメッセージ作成は指導員の方には内緒で、私たちに任せてもらい、行ったが、反省点が多く見つかった。その為指導員の方に相談したところアドバイスを頂き、子ども達がメッセージを書く形式ではなく、『いつもありがとう』『洗濯や掃除をしてくれてありがとう』『お仕事頑張ってるね』などの文字を何個か書きそこに子ども達に好きな絵を書いてもらうといった、自己決定力を高めてもらう事を目的にした。急な変更で、不安だったが、絵だけではなく自分の言葉で『お父さん大好き。ありがとう』と字を書いてくれる子も居て、更に夏の思い出の絵を書く子も居た。嫌々ながら参加をしていた子も居たが、楽しんでやってくれる子や、スタンプ6個集めるとプレゼントがもらえるというのを楽しみに毎回企画に参加してくれる子、嫌々ながら参加していたが途中から楽しくなり、自分で作った物を見せて笑っている子どもも中には居た。私はそんな子ども達を見て嬉しくなったが、果たしてこれだけのことで自己決定力をつける為だとかの目的を達成したかと言われると今思えばそうではなかったの



かもしれない。毎日の積み重ねで、自己決定力がついてくると私は考える。サービスラーニングを終えた時点や、この活動報告のレポートを書くまでは、目的も達成する事ができたと思っていたが、良く考えると、違うのではないかと感じている。自己決定力をつける為の一步に過ぎない。もしかすると、私達の満足感を得るためにやっていたのかもしれない。だが企画を計画する事で、何かをやり遂げようとする事や、子ども達の目線にたって、企画を考える力や、時間配分をどうすれば子どもがその時間内でできるかなど考える力が必要であると学ぶことができた。

こどものいえの地域での取り組みでは、ミニ乙川という、こどもたちの町を作ったりする支援をしたり、また、児童クラブだけではなく、子育て支援など様々なことを行っていた。また、菜の花では児童クラブだけではなく、高齢者施設もあり、はば広い年齢の方との関わりがあることを学んだ。

今回、サービスラーニングで多くのことも学んだが、一番自分の中で成長できたと思うのは考え方である。私の実家はお寺であり、お寺を継ぎながら地域を支える存在の行政で働きたいと思っていた。その後の夢など、全然考えておらず、将来お寺を継ぎ、ルールに沿って歩いていけばいいという考え方から指導員の方と話しているうちに、お寺でサロンを開くと面白いかもという言葉で気づいた。私は子どもが好きというのに改めて気づき、過疎化でなおかつ少子高齢化が進む地元で、参拝者も少なくなっているお寺で子育てサロンを開き、誰もが気軽に来て、居場所としてお寺を提供できるようになりたいと思えるようになった。自分から何かを発信したいことの発信の仕方や、助成金についてなど、もっと学んでいき、福祉の勉強にも更に力を入れて、学生のうちに様々な体験をしていきたいと感じるようになった。それと共に他の学童保育所はどうであるか、研究していきたいと思っている。また、子どもに対して「甘える」と「甘やかす」の違いについてもこのサービスラーニングを通じて考えてきたので、今後も自分なりに研究していきたいと感じている

最後に、菜の花こどものいえに行き6日間という短い期間だったが、このサービスラーニングで学んだことを活かしていきたい。そして、このサービスラーニングは何かのご縁だと思ったので、ボランティアとして、菜の花こどものいえに行かせていただき、また新たな発見をし、学んでいきたい。